

相談援助の理論と方法Ⅱ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 鹿嶋 隆志

■使用テキスト

福祉士養成講座編集委員会(編)

『新・社会福祉士養成講座第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版 2015

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

本講座では、社会福祉援助技術Ⅰで学んだ内容について基礎的な項目を再度復習すると共に、実践に近づけることを目的に事例を中心として授業を展開していく。

そこで、本講座受講生は、能動的に事例に取り組み、即ち自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の再点検と具体的な事例に適応させる力を問い、さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についても理解を深めることを目的として提示しています。

到達目標

- 1) 本講座では、社会福祉援助技術論Ⅰで学んだ内容をより実践に近い事例等で具体的にソーシャルワークを展開する力を修得できる
- 2) それぞれのソーシャルワークの展開過程で何がポイントであるかを説明できる

実務経験のある教員による教育

科目担当（鹿嶋）は、社会福祉士として知的障がい、児童（スクールソーシャルワーカー）等で20年の実務経験があり、その経験に基づき実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第8章 相談援助のための契約の技術

この章ポイント

本章では、社会福祉援助の過程における契約の意義、方法、留意点について学習していくことを目的とする。特に、契約の際の合意について、さらに口頭契約と文書契約の意義と相違点について理解する。

第9章 相談援助のためのアセスメントの技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、アセスメント面接を支える援助的關係のあり方、アセスメントを支える面接時の言語的表現を理解するとともに、アセスメントツールである、ジェノグラム、エコマップについて活用できる力を獲得する。

第10章 相談援助のための介入の技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク介入の意義と目的、さらに介入ターゲットを理解することを目的としている。介入の技術の留意点としては、直接的介入及び間接的介入の方法を・技術を習得し、介入に留意的については、クリティカル・シンカーである必要性和エビデンス・ベースドの重要性についても理解する。

第11章 相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術

この章ポイント

本章では、アセスメントに基づく援助プランの進捗をモニターする方法について具体的に理解する。さらにモニターから得られた情報に基づき、再アセスメントを行うことによる援助計画の修正・強化の手順について理解する。さらに援助の有効性を測定するリサーチ・デザインや分析方法について理解する。

第12章 相談援助のための面接技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク過程で重要な位置を占める、面接についてその手法と効果的な面接のあり方について理解し、習得することを目的としている。さらに本学習を通して、面接の意義、目的、構造、方法、技術について再確認する。

第13章 相談援助のための記録の技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの記録の意味、必要性、記録作成に必要な技術、保存、活用のあり方について理解を深める。ソーシャルワークの記録は、重要な業務の一つであり、その機能は今後さらに重要になってくる。

第14章 相談援助のための交渉の技術

この章ポイント

本章では、多職種チームによる相談援助の実施が主流となる中で、必要な技術である交渉の技術について理解を深める。交渉の目的、方法、技術の基盤となる理念についても理解する。